

# 第4章

## 支援情報と支援機関

### 1 心身の困難さや行動面の変化に関する情報

交通事故で家族が亡くなった後には、子どもには気持ちやからだに特徴的な反応が起こり、行動面の変化も起こります。そのような変化は、これまでの生活では経験したことのないことも多いため、「自分はどうかしてしまったのではないかと、不安に思う子どもも少なくありません。このような心身の困難さや行動面の変化に関する事柄について、必要とされる情報の概要と、それがどこから、いつ頃入手できることが期待されているのかについて説明します。

### 1 心身の困難さや行動面の変化についての情報

交通事故により家族を亡くした子どもは、「自分がんばらなくてはいけない」と必要以上に責任を感じたり、将来に対して漠然と不安を感じたりしやすいことがわかっています。また、眠れなくなったり、何もやる気がしなくなったりする子どもも少なくありません。このような自分自身の気持ちの困難さや行動面の変化について、家族が交通事故で亡くなった後にどのようなことが起こるのか、という情報が必要とされています。

### 2 情報の入手方法

そのような情報の入手方法としては、どこから得られることが期待されているのでしょうか。調査結果からは、情報の入手先として「親」や「同じような経験をした仲間」「学校の教師」「インターネット」等があげられています（図7をご参照ください）。このような情報については、このパンフレットの中にも記載しています（第1章及び第2章をご参照ください）。また、このパンフレットの他にも巻末に書籍やパンフレット、インターネットのウェブサイトを紹介していますので、ご活用ください。

なお、情報提供のされ方ですが、子どもたちは、家族を交通事故で亡くしたからといって、特別扱いされることを嫌う傾向にありますので、そのような情報は、自然な形で入手できることを望んでいます。親や支援する方は、情報を押し付けるのではなく、さりげない形で子どもに提供することが望まれます。また、同じ経験をした仲間と交流する場合も、強制するのではなく、さりげない形で参加できるとよいでしょう。

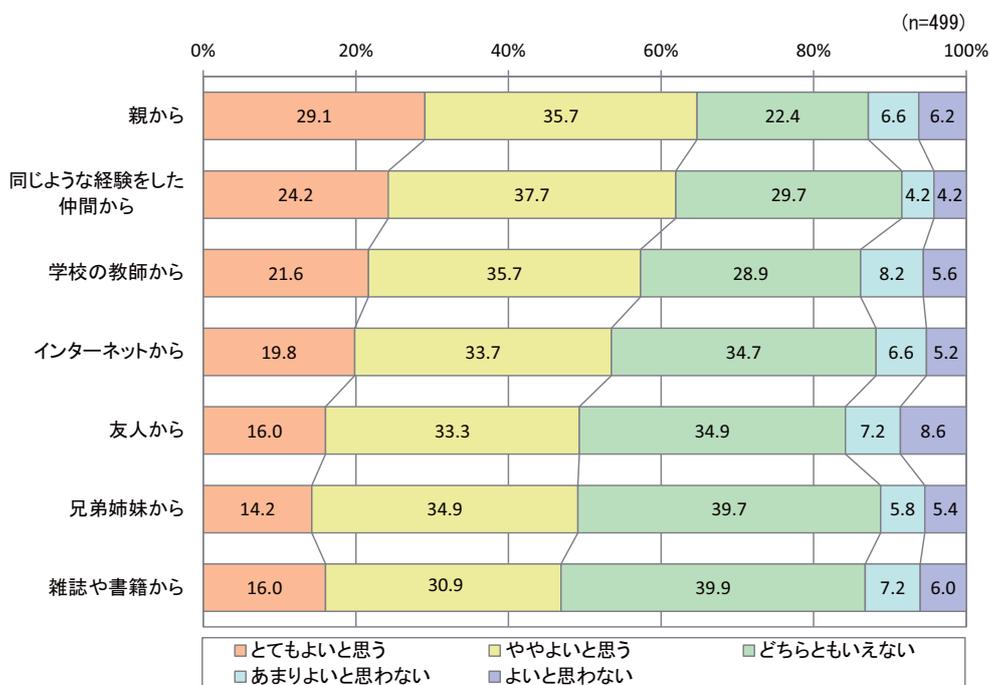
### 3 情報の入手時期

情報を必要とする時期については、子どもによって異なります。例えば高校生の頃の事故であれば、すぐに必要かもしれませんが、また、幼い頃の事故であれば、事故直後には必要ないかもしれませんが、思春期になって必要になるかもしれません。このように、例えば「小学生の頃は不要だったけれども、中学生になって必要となった」ということや「亡くなってから10年以上経って、いろいろ情報がほしくなった」ということもあります。一度、子どもが必要ないと判断しても、その後も情報や交流の機会が不要ということではなく、時期によっては必要な場合もあります。定期的にさりげなく情報提供したり、交流の場を紹介したりすることが望まれます。

## アンケート結果グラフ

グラフは、「心身の困難さや行動面の変化に関する情報の取得先の希望」についての回答結果です。そのような情報は「親」「同じような経験をした仲間」「学校の教師」等から得られることが期待されているようです。

図7 心身の困難さや行動面の変化に関する情報の取得先の希望



平成23年度内閣府交通事故被害者サポート事業報告書 WEB 調査結果より